

令和8年度シラバス（国語）

学番29 新潟県立村上桜ヶ丘高等学校

教科（科目）	国語（言語文化）	単位数	2単位	学年	1年次
使用教科書	『新編言語文化』（東京書籍）				
副教材等	尚文出版『～古文単語と一緒に学ぶ～ 必携 これからの古典文法〔改訂版〕』 浜島書店『新訂版最新国語便覧』、数研出版『正しく読み・解くための力をつける 言語文化』				

グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ①コミュニケーション能力と自分で課題を発見し解決する能力を育成します。 ②各系列において必要な、基礎・基本の学力の習得を目指し、将来の進路実現に繋げる生徒の育成を目指す。 ③個性を生かし、各系列で創意工夫や発想力を活かし、豊かな感性で新しいものを生み出せる生徒を育成します。 ④社会の発展に貢献しようとする大きな志を持って、主体的に地域の生活を創造できる能力を持つ生徒を育成します。 ⑤自己を管理する力を持ち、他者への思いやりや、協働ができ、市民としての社会的責任を自覚する勤勉な態度の生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 下越地域唯一の総合学科とした高等学校として、生徒の多様なニーズに対応した教育活動を行います。 ①地域社会と積極的に連携し、協働する力や社会に役立とうとする意識を育成する。 ②「系列」に応じた様々な選択科目を設置し、生徒一人一人が主体的に興味・関心を広げ、力を伸ばす多様な選択を可能にします。 ③各系列での基礎学力の向上を目指し、卒業までに高い専門性を身に付けさせます。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。 ⑤各系列の多様な価値観や個性を持つ生徒との協働的な学びのフィールドを展開することで、他者を受容し開かれた自己を確立し、人間関係を築く力を育てます。

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

2 指導の重点

進学・就職等、希望進路が多岐にわたっていることから、 (1)基本的な言語事項の習得を重視し、文章を正確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指します。また、論理的に考え、共感したことや想像したことを言葉を通して表現していく力を養います。 (2)他者との関わりの中で自分の思いや考えを伝え合うことで、積極的にコミュニケーションを図る態度を育てます。 (3)文章に関連する本を紹介し、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させようとする態度を育てます。 これらを中心に、社会生活に必要な資質・能力を養います。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

4 評価方法

	知識・技能 a	思考力・判断力・表現力 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や発表、学習活動への参加状況の観察 ・定期考査の結果 ・授業内小テストの結果 ・ノートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や発表、学習活動への参加状況の観察 ・定期考査の結果 ・授業内小テストの結果 ・ノートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や発表、学習活動への参加状況の観察 ・ノートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、総合的に評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域		教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 5	古文編 1 古文入門 古文の世界へ	4	C 読むこと	古文に親しむ 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」	・古典に親しむ態度を養う。 ・歴史的仮名遣いや古語と現代語の違いを理解し、正しく音読する。	a c	・ノート (記述の点検) ・取り組みの様子 (行動の確認)
	古文編 1 古文入門 古文の世界へ	4	C 読むこと	『今昔物語集』 「検非違使忠明」	・話の構成、展開を把握し、登場人物の行動、心情を読み取る。 ・動詞の活用を理解する。	b c	・ワークシート (記述の確認) ・取り組みの様子 (行動の確認)
5 7	現代文編 1 随筆 生きる喜び	4	C 読むこと	俵万智 「さくらさくらさくら」	・引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。	a b c	・ワークシート (記述の分析) ・ノート (記述の分析) ・振り返りシート (記述の確認)
	古文編 2 随筆 日々の思い	5	C 読むこと	『徒然草』 「亀山殿の御池に」 「奥山に、猫またといふものありて」	・形容詞、形容動詞の活用を理解する。 ・筆者の、人間や社会に対する考え方を読み取る。	a c	・ノート (記述の点検) ・取り組みの様子 (行動の確認)
	漢文編 1 漢文入門 漢文に親しむ	4	C 読むこと	訓読の基本 訓読 格言 再読文字	・漢文に親しむ態度を身に付ける。 ・漢文訓読の基本事項(返り点の種類、用法、助字等)を確認する。	a c	・ワークシート (記述の分析) ・取り組みの様子 (行動の確認)
7 9	現代文編 3 詩歌 命をうたう	2	B 書くこと	柳あをめる【短歌】 雪の深さを【俳句】	・短歌や俳句の鑑賞方法を学び、想像力や感受性を豊かにする。 ・俳句を創作し、作品を鑑賞し合う。	b c	・ノート (記述の分析) ・取り組みの様子 (行動の確認)
	現代文編 3 詩歌 命をうたう	3	B 書くこと	高村光太郎 「冬が来た」他 二編	・現代詩を鑑賞し、表現や考えをもとに、さまざまな世界を読み味わう。 ・詩の創作をし、発表しあう。	b c	・ワークシート (記述の確認) ・発表の様子 (行動の確認)
	古文編 4 物語 古人の生き方	6	C 読むこと	『伊勢物語』 「芥川」 「筒井筒」	・歌物語の特徴や作品成立の背景について理解を深める。 ・助動詞の意味を理解し、現代語訳に活かす。	a c	・ノート (記述の点検) ・取り組みの様子 (行動の確認)
	漢文編 1 漢文入門 漢文に親しむ	2	C 読むこと	故事成語一三編	・漢文訓読の基本事項を確認し、正しく訓読する。 ・現代に活きる故事成語の由来に関心を持つ。	b c	・ノート (記述の分析) ・音読の様子 (行動の確認)
	現代文編 4 小説2 葛藤する心	8	C 読むこと	芥川龍之介 『羅生門』	・情景描写に注目し、物語の設定を確認する。 ・登場人物の心理の移り変わりを読み取る。 ・人間のあり方について目を向ける。	b c	・ワークシート (記述の確認) ・発表の様子 (行動の確認)
9 12	古文編 3 詩歌 うたの心	5	C 読むこと	大岡信 「折々のうた」 万葉集 等	・和歌に込められた思いを的確に読み取る。 ・和歌の修辞法を理解する。 ・助動詞の意味を理解し、現代語訳に活かす。	a c	・ノート (記述の点検) ・取り組みの様子 (行動の確認)

9 1 2	漢文編 2 漢詩 漢詩を味わう	2	C 読むこと	絶句と律詩一七首	・漢詩のリズムを読み味わい、詩として表現された作者の思いを読み取る。 ・漢詩のきまりを理解する。	a c	・ノート (記述の点検) ・取り組みの様子 (行動の確認)
	漢文編 3 論語 論語のことば	2	C 読むこと	論語一八章	・漢文訓読の基本事項をもとに、正しく訓読する。 ・孔子の学問、人間、政治に対する考え方を知り、ものの見方や考え方を豊かにする。	a c	・ノート (記述の点検) ・取り組みの様子 (行動の確認)
	現代文編 2 小説1 触れ合う心	5	C 読むこと	吉田篤弘 「オレンジの実 中庭」	・場面や人物の設定における特徴を捉え、作中の「オレンジ」が持つ意味について考える。	b c	・ワークシート (記述の確認) ・取り組みの様子 (行動の確認)
1 2 3	現代文編 5 小説3 現実の向こう側	4	C 読むこと	夏目漱石 『夢十夜』 第一夜 第六夜	・習得してきた小説の読み方を踏まえ、文体や表現に注目して「夢」の時間軸の揺らぎを読み味わう。	a b c	・ワークシート (記述の分析) ・ノート (記述の分析) ・振り返りシート (記述の確認)
	古文編 4 物語 古人の生き方	5	C 読むこと	『平家物語』 「木曾の最期」	・軍記物語特有の表現に注目しながら、登場人物の言動や心情を読み取る。 ・敬語や助詞の働きを理解し、まぎらわしい語の識別をする。	a c	・ノート (記述の点検) ・振り返りシート (記述の確認)
	漢文編 4 史話 史話を楽しむ	5	C 読むこと	史話一三編	・習得してきた漢文の読み方を踏まえ、描かれている人間の姿を多角的に読み取る。	b c	・ノート (記述の分析) ・振り返りシート (記述の確認)

計 70 時間 (50分授業)

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	B「書くこと」 5 時間	C「読むこと」 65 時間	うち 古文・漢文 現代文	44 時間 26 時間	40～45時間程度 20時間程度
(目安) 5～10時間		60～65時間			

6 課題提出物等

- ・単元ごとに授業内小テストの実施や振り返りシートの記入をします。
- ・長期休業中の課題は別途指示し、休業明けには課題テストを実施します。
- ・学習内容に関連した課題を随時課します。
- ・上記の小テストの結果や課題の提出・取り組み状況やその内容は、評価に含めます。

7 担当者からの一言

「言語文化」は生涯にわたる社会生活に必要な国語の能力を育成し我が国の言語文化に対する理解を深める科目です。国語や言葉の知識を身に付けることに加え、論理的に考え、他者との関わりの中で共感したり想像したりする力や伝え合う力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりしていきましょう。こうした力は、さまざまな学習に活きる力です。受身ではなく、目的意識を持って、意欲的に取り組むことを期待します。